

TOPICS 今号のトピックス

助成事業による特別収集番組を2月に公開
「BL・クリエイター支援サービス」の試験運用は順調なスタート
大学関係者が集い、放送番組の活用を考える研究発表会を開催
2月の「ゲゲゲの森の妖怪展」は1万人を超える盛況
3月に今年度最終の理事会などを開催

■助成事業による特別収集番組を2月に公開

今年度は、助成事業によって「世界遺産関連番組」と「地域文化に関する番組」の収集・保存・一般公開を実施した。

国内外の世界遺産を取材したシリーズ番組の特別収集は日本郵便の平成22年度年賀寄附金助成を受けて、「青少年を対象に世界遺産に関する理解を促進させるテレビ番組の収集、保存及び公開事業」として行ったもので、番組内容は次のとおり。

- ・『世界遺産』111本(TBSテレビ)
- ・『榎木孝明が描く風景 ～日本の世界遺産～』13本
(ゼロクリエイト/ビー・エス・ジャパン)
- ・『ハイビジョン紀行』6本(ジェー・ピー/ビーエス朝日)

TBSテレビの『世界遺産』シリーズは、1996(平成8)年放送の第1回放送分から、今回収集の2001(平成13)年放送の第245回までを、これまで4回にわたって収集した。

ゼロクリエイトが制作した『榎木孝明が描く風景 ～日本の世界遺産～』は、画家でもある俳優・榎木孝明さんが国内の世界遺産を訪ねて自分なりのアングルで各遺産を見つめ、水彩画でスケッチしていくシリーズ作品。(写真)



写真提供 Shuji Iori

また、番組内容をまとめた記録冊子を1千部作成し、図書館、博物館、放送局等に配布し広報に努めた。世界遺産の関連番組は幅広い年代にも関心が高く、一層の番組視聴の促進を図る計画だ。

「地域文化に関する番組」の特別収集は、財団法人JKAによる競輪公益資金の補助を受けて、日本各地の特色ある歴史、伝統、風土など、地域文化を取り上げたテレビ番組166本を保存し公開した。これは全国の民放地方局の番組を文化資産としての充実と活用を図り、地域文化への理解と関心を

一層深めてもらう目的で、これまで4年間にわたり継続してきた。

シリーズ番組は、「いにしへの歴史浪漫 平泉ふれあい散歩」岩手めんこいテレビ、「ふくしまの素顔」福島中央テレビ、「ぼくらの宝物 ふるさとの伝統文化を受け継ぐ」新潟総合テレビ、「里山大回廊をゆく」テレビ信州、「1億人の富士山スペシャル」山梨放送、「汽車に乗ろうよ」静岡第一テレビ、「柴田理恵認定 ゆるゆる富山遺産」チューリップテレビ、「ラララ白山 かつ先生のふしぎ教室」テレビ金沢、「県民参加ドラマ」三重テレビ放送、「四国遺産」西日本放送、「四季の国」愛媛朝日テレビの民放11社。この他に、札幌テレビ放送、テレビ北海道、青森テレビ、テレビ岩手、仙台放送、山形テレビ、群馬テレビ、とちぎテレビ、テレビ山梨、サンテレビジョン、日本海テレビジョン放送、あいテレビ、宮崎放送など13社の制作番組の保存、公開を行った。

■「BL・クリエイター支援サービス」の試験運用は順調なスタート

放送ライブラリー公開番組の一部を放送局向けに番組配信する「BL・クリエイター支援サービス」は、昨年12月22日から試験運用を開始しているが、3月4日から新たにラジオ番組343本を追加した。これは施設内で一般公開済みの「ドキュメンタリー・録音構成」「教育・教養」からNHK、民放各社の各番組コンクール受賞作品など力作・秀作を選定したもの。利用者からは「NHKや系列を超えた各社の番組が視聴できることになり大変にいい仕組みを作ってくれた」などの感想が届いている。

現在(3/24)までのIPアドレス登録数は、テレビ92社、ラジオ58社、利用登録者数は、70社201人となった。この配信サービスでラジオ番組の聴取も可能になったことから、今後、ラジオ社の登録も増加する見込みだ。

今年度の番組保存委員会では、7月から予定している本格運用前の取りまとめに向けて、配信番組の著作権や人権・プライバシーへの対応、システムのセキュリティ強化策などについて検討を進めている。民放、NHKとの基本協定書の見直し、権利処理関連では、著作権管理団体から試験運用は了解済みだが、公衆送信権に関わる処理についての使用条件や対価等の詳細を詰めている。更に人権・プライバシー保護の慎重な対応も図る。システム面では、配信番組の取り込みができないストリーミング方式や、IPアドレスとID・パスワードの認証、高度なファイアウォール装置などのセキュリティ対応としたが、セキュリティの強化対策については今後も検討を重ねる。

■大学関係者が集い、放送番組の活用を考える研究発表会を開催

当センターと早稲田大学ジャーナリズム教育研究所は、平成21年度から3カ年計画で、“放送ライブラリーの保存番組を大学教育にどのように利活用できるか”をテーマに共同研究を進めている。3月5日(土)、横浜の施設内で「放送ライブラリーを活用するジャーナリズム教育の教材開発の試み」と題して公開研究発表会を開催した。当日、大学関係者38名の参加者は約4時間近くにわたり、熱心に聴講していた。

冒頭、当センターの工藤専務理事の挨拶に続き、早稲田大学ジャーナリズム教育研究所の花田達朗所長(教育・総合科学学術院教授)が基調報告を行った。花田教授は「この共同研究を促進するために『放送番組の森研究会』を立上げ、早稲田大のほか法政大、青山学院大、日大、立教大などで教鞭をとる先生方10名で、テーマの検討や教材開発を検討してきた」と紹介し、「放送番組は現実を切り取って再構成したもので現実の代用品でもある。人々は番組を見ることで、その事実の表象が記憶される。放送番組を大学教育に活用する役割と効果は高く、“番組は公共財である”との視点が大事だ」と強調した。

この後、3人の研究会メンバーが、モデル教材の試作版として、「ヒロシマ・ナガサキ」「原子力」「BC級戦犯」をテーマに番組上映を交えて講義した。最後に、研究会メンバーと参加者との間で熱心な質疑が展開された。



毎年2、3月にはCM関連の催しを開催しているが、2月11日に「カンヌ国際広告祭入賞作品上映会」、3月5日に「ACC・CMフェスティバル入賞作品上映会」を実施した。CMに興味のある方、クリエイターを目指す若者などが多数集まった。

2月26日に「放送人の会」との共催の「第29回名作の舞台裏・6羽のかもめ」を実施した。37年前の作品だが今もなお新鮮さを感じられる内容で、出演した淡島千景さん、脚本の倉本聰氏、番組プロデューサーの嶋田親一氏が登壇し、このドラマが生まれたいきさつ、制作当時の思い出、今のテレビへの心情などを語った。なお、3月19日に開催予定だった「第8回人気番組メモリー・進め!電波少年」は、東北関東大震災の影響を考慮し4月以降に延期した。



■2月の「妖怪展」は1万人を超える盛況

昨年のNHK連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』で話題となった、漫画家・水木しげるさんの人生と水木さんが愛する妖怪の世界を紹介する企画展「水木しげるの人生絵巻とゲゲゲの森の妖怪たち展」(開催2/4~4/3)が好評だ。会場は、『ゲゲゲの女房』の番組ファンの方、水木さんと同様の戦争体験を持つお年寄り、アニメ『ゲゲゲの鬼太郎』を見ながら育った世代や子供たちなど幅広い世代の来館者で賑わっている。特別展示として、『ゲゲゲの女房』の美術セットの資料(展示協力:NHK)、今までに5シリーズ放送されたアニメ『ゲゲゲの鬼太郎』の変遷を辿るパネル(展示協力:東映アニメーション)も展示している。また、8階の視聴ホールで公開済みのアニメ作品『ゲゲゲの鬼太郎』(1968年版)やNHKのドラマ『のんのばあとオレ』の上映コーナーも併設した。モノクロの鬼太郎を見て「少年時代の記憶が甦ったようだ」と語る50代の男性もいた。2月の来館は1万2千人を超える盛況となった。

■3月に今年度最終の理事会などを開催

3月9日に開催された今年度第4回番組保存委員会では、テレビ保存対象番組(20年度放送分)の選定案の審議、「BL・クリエイター支援サービス」の試験運用の状況報告と本格運用に向けたセキュリティ対策などの諸課題を検討した。また、「BPOから指摘された番組の収集と視聴方法について」の詳細を検討するために、新たに小委員会を設置することが審議された承された。

16日開催の第4回事業運営委員会では、退任された今井前副委員長の後任として、小野委員(NHK副会長)を副委員長に選任した。また、23年度事業計画及び収支予算、公益財団法人への移行について審議、了承され、両案とも理事会に諮られた。

18日開催の第5回理事会では、退任された今井前副会長の後任として小野理事(NHK副会長)を副会長に選任した。また、1月の第4回理事会で承認された事業計画と収支予算の考え方に基づいて、その後の助成金の決定や運用益の増収等を加味・修正した平成23年度事業計画及び収支予算が提案され承認された。公益法人改革への対応については、放送ライブラリー事業の公益性の考え方について説明があり、公益財団法人への移行方針が承認された。併せて新法人の機関設計と定款変更の素案、及び認定申請までのスケジュール案が示され、次回の理事会において、これら機関設計、定款変更案、及び最初の評議員選任方法と選定委員会委員案など、認定申請に必要な事項の詳細について審議することとした。

【放送番組センターレポート】は事業の現況をお知らせする内容で、年間4回発行する放送番組センターの機関紙です。